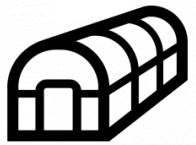


農業を担う人材の確保・育成について

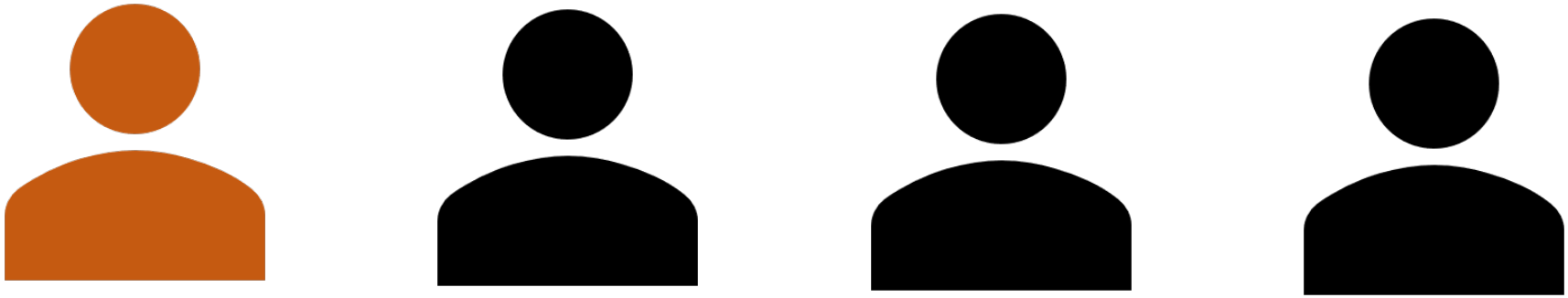
農林水産省

経営局　就農・女性課

2024年5月28日

農林水産省
就農のページは
こちら

若者の4人に1人が就農を検討！



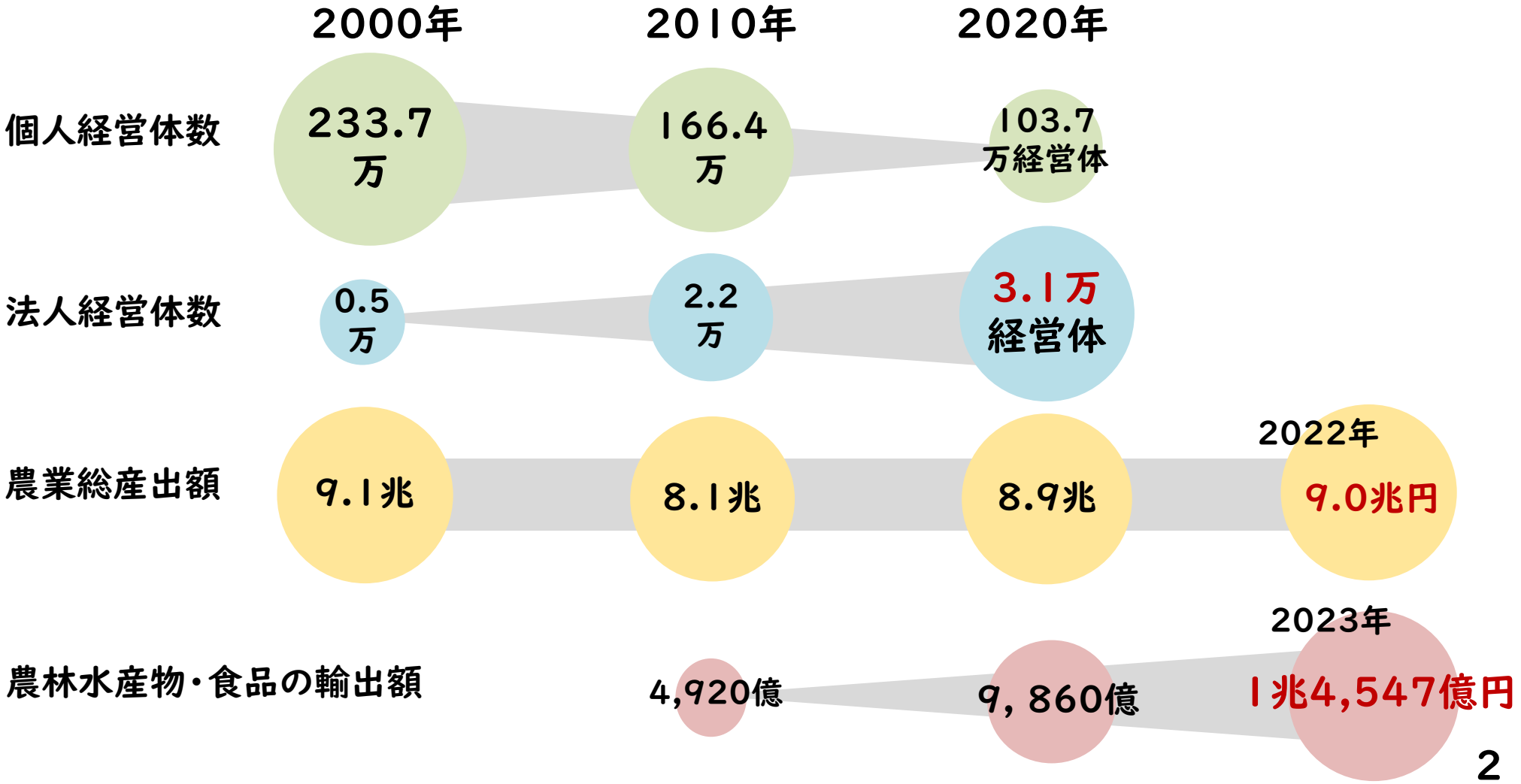
① 農業未経験のZ世代のうち、
26.9%が「農業をやってみたい」

② 就職意向のある学生のうち、
28.1%が「今後の就職先として農業を検討」と回答

JA共済連「農業に関する意識と実態調査」（10～50代の男女10,000人を対象としたインターネット調査）

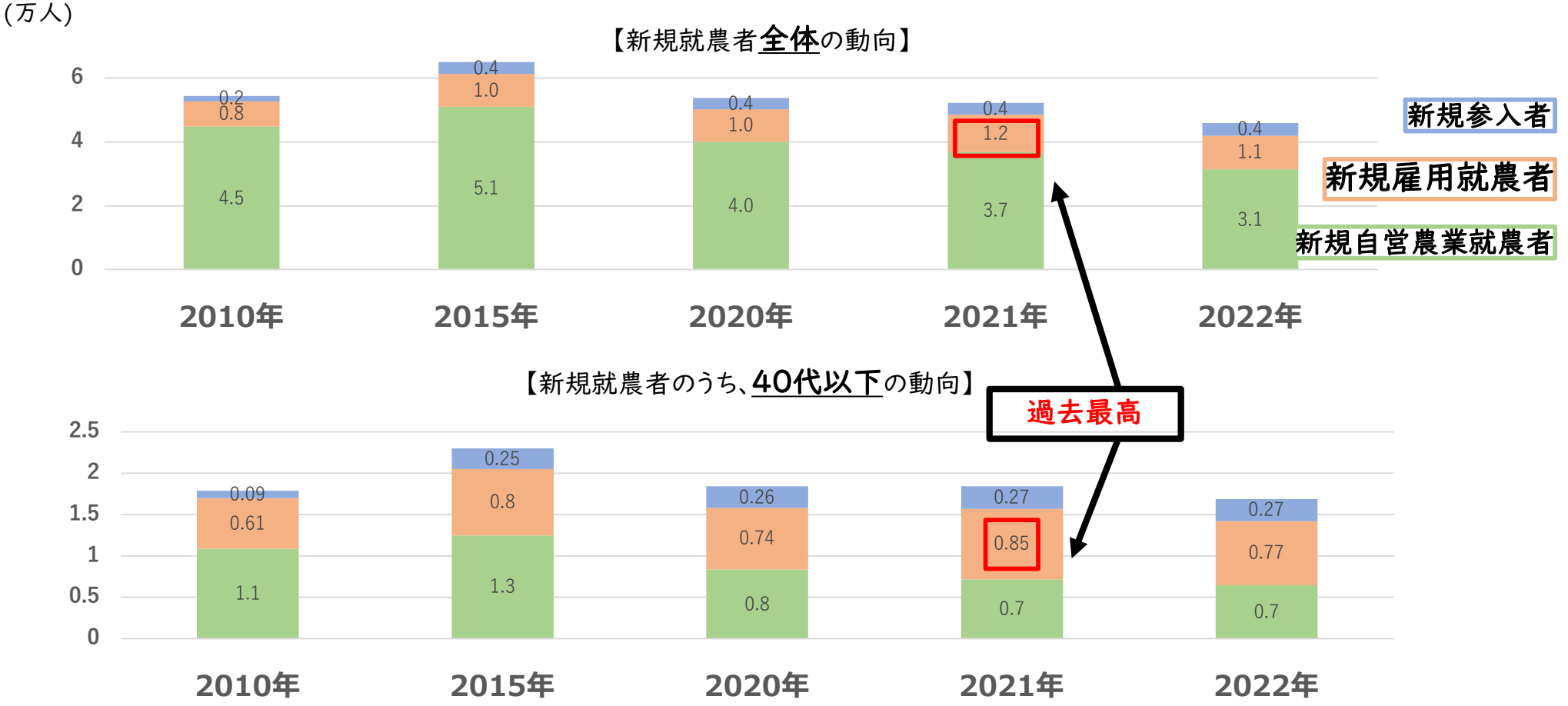
我が国の農業構造

○ 個人経営体は減少しているものの、法人をはじめとした団体経営体数は着実に増加。
○ 農業総産出額は、近年、米、野菜、肉用牛等における需要に応じた生産の進展等を主たる要因として増加。
○ 農林水産物・食品の輸出額は増加傾向で、2023年は過去最大の1.45兆円。



新規就農者数の推移

○ 2022年の新規就農者数は約4.6万人。そのうち約7割は親や親戚を継いで就農する者。
○ 将来の担い手として期待される40代以下の新規就農者は1万7～8千万人前後で推移。
○ 農業法人が増加する中で、農業法人等に雇用される形で新たに就農する者は増加傾向。
　特に40代以下では、2021年に親や親戚を継いで就農する者の数を初めて上回った。



資料：農林水産省「新規就農者調査」
（各年の数値は、2014年以前は当該年の4月1日～翌年の3月31日まで、2015年以降は、当該年の2月1日～翌年の1月31日までの1年間に新規就農した者の数）
※ 新規雇用就農者：新たに法人等に常雇い（年間7カ月以上）として雇用されることにより、農業に従事することとなった者
（外国人技能実習生及び特定技能外国人並びに雇用される直前の就業状態が農業従事者であった場合を除く）
※ 新規参入者：土地や資金を独自に調達し、新たに農業経営を開始した経営の責任者及び共同経営者（相続・贈与等により親の農地を譲り受けた場合を除く）
※ 新規自営農業就農者：個人経営体の世帯員で、生活の主な状態が、「学生」から「自営農業への従事が主」になった者及び「他に雇われて勤務が主」から「自営農業への従事が主」になった者

就農情報ポータルサイト「農業をはじめる.JP」

○ 農業に興味を持たれた方や、これから農業を始めたい方が、農業を知り、就農に向けて具体的な行動を起こしていくために必要となる情報を一元的に閲覧できる就農情報のポータルサイトを開設。

※ 農林水産省補助事業（農業人材確保推進事業）として、全国新規就農相談センターが運営。

https://www.be-farmer.jp/

就農に向けた段階に応じて必要となる情報を網羅

就農を知る
- 農業って、どんな仕事？
- 就農適性診断
- 先輩農業者の就農ストーリー
- 支援が充実している地域の紹介

研修・学ぶ
- 農業が学べる教育研修機関（農大、農業専門学校等）
- 自治体やJA等の研修情報
- 民間企業等が開催する農業研修情報

体験する
- 農業インターンシップ
- 農泊
- 自治体や民間企業等の農業体験情報

求人情報
- 新規就農相談センター求人DB
- ハローワークインターネットサービス
- JAや民間企業等の農業求人サイト

相談する
- 全国新規就農相談センター
- 各都道府県にある就農相談窓口の紹介（JA・都道府県）
- 自治体等が開催するの就農相談会情報

支援情報
- 都道府県・市町村の就農支援DB
- JAグループの新規就農支援
- 農地・空き家を探す
- 移住支援（「いいかも地方暮らし」等）

農林水産省だけでなく、関係省庁や自治体、JAグループ等が行っている支援やサービスも並列に紹介するとともに、自治体やJA、民間企業等が実施する農業体験や就農相談会等に関する情報をニュースとして掲載。

農業に興味がある学生さんへ

○ 全国及び各都道府県の**就農相談窓口**や、情報サイトにおいて、就農情報の提供や就農相談を実施するとともに、**新規就農相談会**を開催し、就農希望者の就業を支援。就農相談等の実施に当たってはハローワークとも連携。

○ 大学生、社会人等を対象とした、農業法人や農場での**就業体験**を支援。

就農相談活動

全国及び各都道府県に設置する「**新規就農相談センター**」や、就農情報サイト「**農業をはじめる.JP**」等において情報提供、就農相談を実施。

【お問い合わせ先】

全国新規就農相談センター（一般社団法人全国農業会議所）
☎03-6910-1133
URL：https://www.be-farmer.jp

就農相談会（新・農業人フェア）

新規就農ガイダンス、就農体験紹介、農業法人等の会社説明、自治体の就農支援情報の提供等を実施。

新・農業人フェア　開催日程		
7/20（土）	東京	歌舞伎座タワー
8/31（土）	東京	東京国際フォーラム
10/27（日）	大阪	グランキューブ大阪
12/8（日）	東京	東京ビッグサイト
2/1（土）	東京	東京交通会館

移住・交流情報ガーデン　総務省と連携

ワンストップ移住支援窓口として、地方（農村）への移住・交流についての一般的な相談や問合わせに対応している。この他、就農情報について、専門の相談員が対応。

【開館時間】
（平　日）11:00-21:00
（土日祝）11:00-18:00
休館日：月曜（月曜が祝日の場合は火曜日）
年末年始(12/29~1/3)

就業体験（インターンシップ）

農業適性の確認や就業ミスマッチを防止するため、農業への就業を考えている方を対象に、短期間の就業体験を全国約250箇所で実施。

【お問い合わせ先】

公益社団法人日本農業法人協会　農業インターンシップ事務局
☎03-6268-9500
URL：https://hojin.or.jp/agri/agri_category/human/internship

１日単位で参加できる農業バイト

○ 農業でも、生産者と求職者をマッチングする労働力募集アプリの活用が進展。
　１日・１時間単位から農作業でき、 社会人のほか、学生の利用も多い。
○ 利用者のうち、46%が農作業の未経験者であり、「まずは体験してみたい」というニーズにもマッチ。

労働力募集アプリの事例

デイワークの仕組み
資料：とかちアグリワーク

https://day.work/

農Howの仕組み
資料：株式会社アグリトリオ

https://agritrio.co.jp/nouhow.html

メディアを通じた農業の魅力発信

○ 現場で活躍する農業者との接点を通じ、これまで農業に縁がなかった若者等が「職業としての農業の魅力」を知る機会を創るために、民間企業が「農業の魅力発信コンソーシアム」結成し、イベントやメディア ・SNSを通じた情報発信を実施。

例）2023年夏
学生が全国で農業を体験するイベントを開催

農業の魅力発信コンソーシアム
公式WEBサイト

ロールモデル農業者から、農業を始めたきっかけや魅力を発信しています!

田中 綾華

ROSE LABO

（埼玉県深谷市）

大学在学時に「食べられるバラ」を知り就農。
バラを使ったジャムや化粧品を開発、販売。

濱田 健吾

アクポニ

（神奈川県横浜市）

養殖魚の糞で野菜を作る究極の循環型農業
「アクアポニックス」を展開。

鈴木 広史

Farmer's Yard

（神戸市北区大沢町）

学生時代のホームセンターアルバイトをきっかけに
植物の魅力を知り、フローリストを経て就農。
食べられる「野菜ブーケ」を販売。

米田 望

巣鴨養蜂園

（岩手県西和賀町
東京都豊島区）

20代ではちみつ農家に。
採蜜方法を試行錯誤し、今では売上2,000万円。

note

随時、更新中!

元スポーツ選手や元IT企業からの転職など
全国約130名の就農ストーリーを掲載して
います。是非ご一読ください。

「農業女子プロジェクト」について

農業女子PJ

趣旨

「農業女子プロジェクト」（2013年設立）は、農業内外の多様な企業・教育機関等と連携して、農業女子の知恵を生かした新たな商品・サービスの開発、未来の農業女子をはぐくむ活動、情報発信等を行い、社会全体での女性農業者の存在感を高め、女性農業者自らの意識の改革、経営力発展を促し、職業としての農業を選択する若手女性の増加を図ります。農業女子同士のネットワークづくりにも取り組んでいます。

参加メンバーデータ

農業女子メンバー
全国 1,011名

参画企業
32社

教育機関
8校

（2024年3月31日現在）

具体的な取組

企業プロジェクト

企業と農業女子メンバーが協同で新たな商品やサービスの開発等を行い、女性農業者の活躍や魅力を発信（それぞれの企業活動の一環として推進）

チーム“はぐくみ”

高校・大学等の教育機関と活躍する魅力ある農業女子メンバーが連携し、農業を志す学生の発掘や動機づけ、意識の向上のための取組を実施

SDGs活動の発信

“農業者のわたしたちにできる5つのこと”として農業女子メンバーのSDGs活動を発信

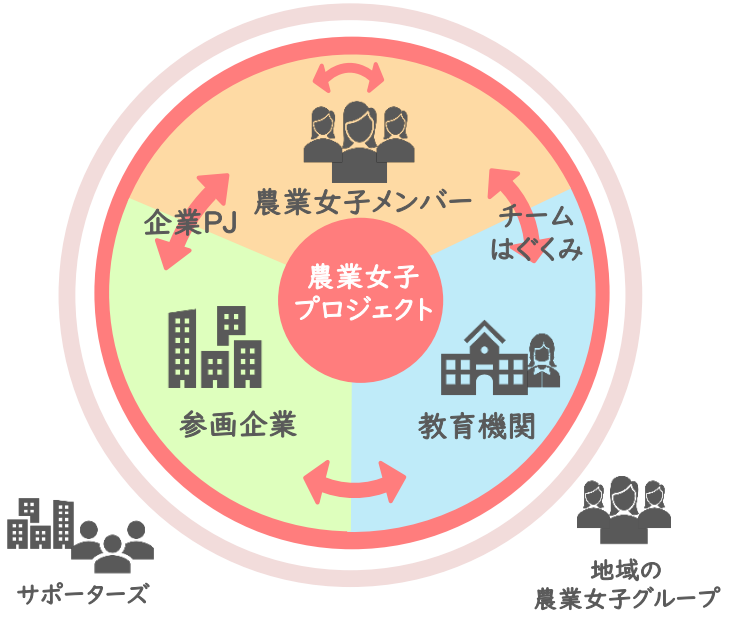
NEXTラボ

メンバーの関心の高いテーマについて勉強会等を実施

SNSやイベント等を活用した女性農業者の魅力発信

プロジェクトの目的

- 社会、農業界での女性農業者の存在感を高める
- 女性農業者自らの意識の改革、経営力の発展
- 若い女性の職業の選択肢に「農業」を加える



教育機関×農業女子プロジェクト

農業女子PJ

〇「農業女子プロジェクト」の「チームはぐくみ」では、高校・大学等の教育機関と、農業女子プロジェクトに参加する全国のメンバーが連携し、農業を志す学生の発掘や動機付け、意識の向上のための取組を実施し、職業の選択肢に「農業」を加えることを目指しています。
〇チームはぐくみでは、農業女子メンバーの農場インターンシップや講義、ワークショップなどの様々な取組が可能です。

山形大学

〇農業女子メンバーと学生によるワークショップ
〇農業女子プロジェクトメンバーによる講義

産業能率大学

〇インスタグラムを使った農業女子の情報発信
〇農業インターンシップも体験しつつ経営の観点からの情報発信を行う

近畿大学

〇卒業生である農業女子メンバーが母校で講演、母校の学園祭マルシェに参加
〇農業女子メンバーの農場でインターンシップを実施

桜美林大学

〇農業女子メンバーによるセミナー開催
〇農業の魅力発信を研究

東京農業大学

〇農業女子メンバーの農場でインターンシップを実施

東京家政大学

〇農業女子メンバーによるセミナーの開催と、模擬収穫体験の実施

南九州大学

〇農産物の播種、栽培、PR、食卓に並ぶまでを考え、宮崎県の農業女子PJメンバー、女性農業者グループと活動、イベント等で販売

<お問い合わせ先>
経営局就農・女性課女性活躍推進室 ＴＥＬ　03-3502-6600（内線：5194） E-MAIL team-jyosei@maff.go.jp

農業女子アワード

●2023年2月14日に、今後の食・農・くらしの活性化に向けた女性農業者及び若者のビジネスアイデアや、年齢、性別などに関わらず個性を活かした農業経営を行っている家族・法人を表彰する「農業女子アワード2022」を開催。
（主催：(株)マイファーム、後援：農林水産省）

「農業女子アワード2022」ファイナリスト

【審査員（五十音順）】
加藤百合子氏／（株）エムスクエア・ラボ代表取締役
小安美和氏／（株）Will Lab代表取締役
塚原月子氏／（株）カレイディスト代表取締役社長
松本浩平氏／オイシックス・ラ・大地（株）取締役
元広菜穂子氏／（一社）全国農業協同組合中央会広報部長

農業女子アワード2022▶
Webサイト

最優秀賞

ベストウーマン賞（女性農業者）

辻 朋子氏
【兵庫県】

「Last One Spoon ～若づるα化米粉～」

- 酒造好適米「山田錦」から製造したα化米粉を活用し、介護食・嚥下食を開発中。
- 地域の言語聴覚士（嚥下食調理技能者）、ユニバーサルカフェ経営者、就労継続支援事業所等と連携。

ベストグループ賞（女性農業者グループ）

TUMMY（株）【東京都】

「共感・推し活・DAO。農課題解決の新たな提案」

- 農家、料理人、デザイナー、マーケターなどがメンバーのDAOコミュニティ。
- 14人の作り手が愛をこめて作った農産物を届ける「愛食」カタログギフトを展開。

ベストユース賞（小学生～25歳の若者）

伊藤 佑真氏
【京都府】

「農業オタク for Farm」

- 大学の仲間とともに、近隣農家の圃場に罠を設置して、鹿や猪のハンティングを実施。
- 希少なニホンミツバチの養蜂にチャレンジ。罠と同様に圃場に巣箱を設置し受粉昆虫としても活用。採蜜、瓶詰めまで自分たちの手で行い、「京太のはちみつ」として販売。

ベストファミリー賞（家族経営体）

柴崎農園【群馬県】

「はばたけ！柴崎農園」

- 年間20種類の野菜を作る小規模家族経営。野菜のおいしさを伝える市内初の農家レストランを2022年に開設。
- アンテナショップを開設し、地域の農家や飲食店の産品も販売。子育て世代を積極的に採用し、急な休みにも対応できる体制を整備。

ベストカンパニー賞（法人経営体）

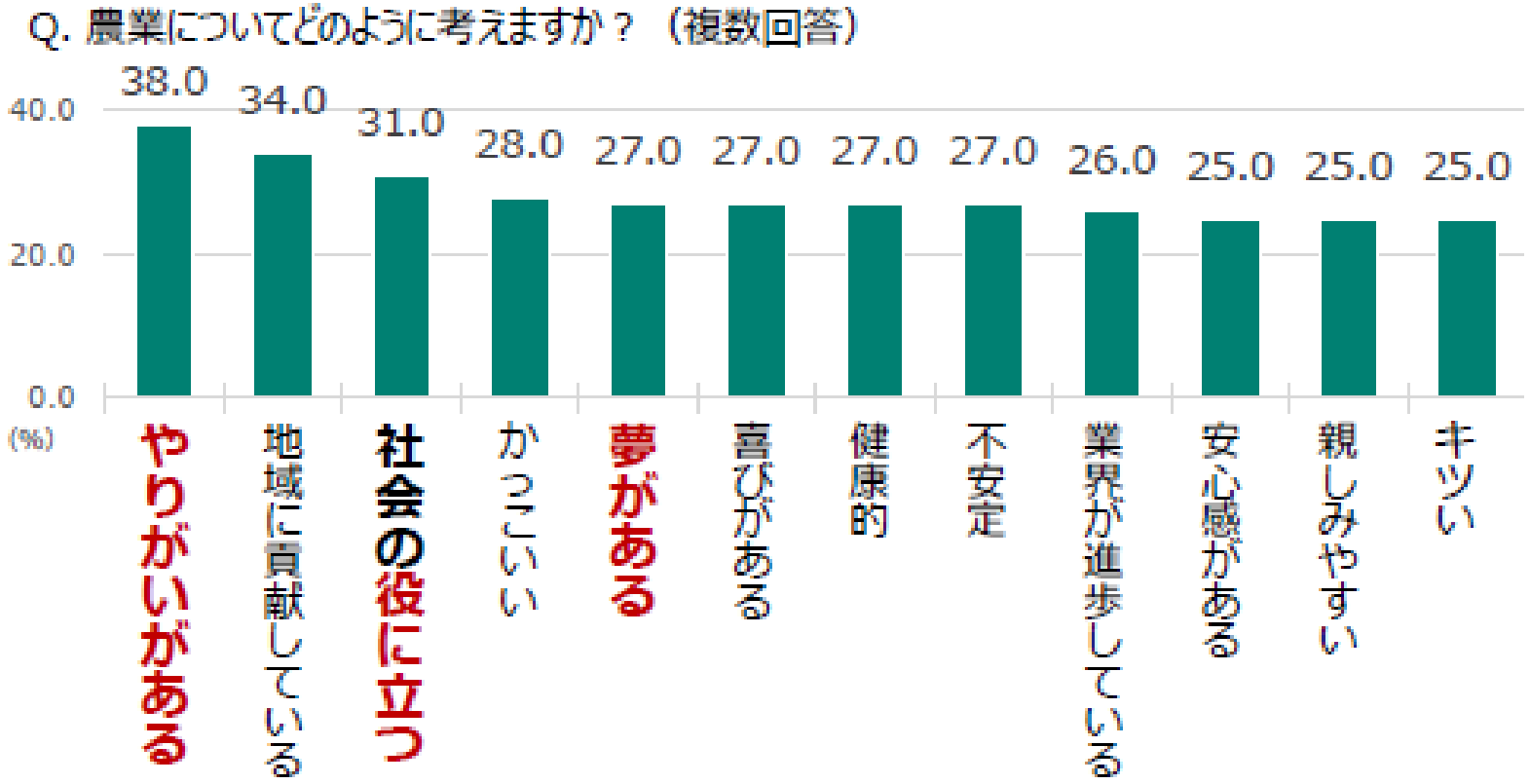
（株）ドロップ【茨城県】

「農業に新たな魅力を。～それぞれが主役になれる『人的資本経営』～」

- 農業の関係人口を増やすため、スタッフそれぞれの経験や強みを活かしたイベントを開催するなどの「人的資本経営」を実践。
- 今後は、チームで走り続ける意識をさらに高めるために、持ち株制度の導入を検討。

3Kから3Yの時代へ！

○ 農業に5年以上従事している者（100人）への調査では、農業についてどのように考えるかについて、「やりがいがある」「地域に貢献している」「社会の役に立つ」「かっこいい」「夢がある」が挙がり、ポジティブにとらえている者が多いことが分かった。



JA共済連「農業に関する意識と実態調査」（10~50代の男女10,000人を対象としたインターネット調査）

就農・女性課　新規就農施策の全体像

「農業」の発見

就農検討

就農準備

就農開始

経営確立

農業の魅力発信支援事業

- 職業としての農業の魅力発信の取組を支援

農業人材確保推進事業

- **就農希望者への情報発信、インターンシップの実施、就農相談会の開催**等を支援

独立自営就農の促進

就農準備資金

- 研修期間中、**年間最大150万円**を交付（最長2年間）

雇用就農の促進

雇用就農資金

- 就農希望者を新たに雇用する農業法人等に対して、**年間最大60万円**を交付（最長4年間）

経営開始資金

- 新たに経営を開始する者に対して、**年間最大150万円**を交付（最長3年間）

経営発展支援事業

- 県が機械・施設等の導入を支援する場合、県支援分の2倍を 国が支援。**補助対象事業費上限：1,000万円（国の補助上限500万円）**

外国人材受入総合支援事業

- 技能試験の円滑な実施、外国人材が働きやすい環境の整備

農業労働力確保支援事業

- **他産地・他産業との調整等による労働力確保**の取組を支援

体制支援

サポート体制構築事業

- 就農希望者に 対する資金調達・**生活面**等の相談窓口となる**就農相談員の設置**等を支援
- 先輩農業者等による新規就農者への技術面等のサポートを支援
- 農業団体等の 伴走機関が行う実践的な**研修農場の整備**を支援
- **社会人が働きながら受講できる農業研修**の実施を支援

教育支援

農業教育高度化事業

- 農業大学校や農業高校等の農業教育機関における教育の高度化に必要な取組（**機械・設備の導入、出前授業の実施**等）を支援

農業者キャリアアップ支援事業

- 都道府県等に よる**現役農業者に対するデジタル・グリーン分野の人材育成強化**を支援

女性が変える未来の農業推進事業

女性農業経営者の育成、女性が働きやすい環境の整備

農林水産省からの情報発信

BUZZMAFF

農林水産省職員が自ら省公式YouTubeチャンネルでYoutuberとなるなど、担当業務にとらわれず、その人ならではのスキルや個性を活かして、我が国の農林水産物の良さや農林水産業、農山漁村の魅力を発信するプロジェクト。（登録者数17.2万人）。

日本の農林水産業を世界へ

推しは、農山漁村です！我らが推しの魅力を、どしどしお届けします！

もっと皆さんの生活にお花を！お花の魅力や管理方法をご紹介します！

水産庁の若手職員が、水産業界を盛り上げるために全力でPRします！

aff

消費者の皆さん、農林水産業関係者、そして農林水産省を結ぶWebマガジンです。施策の現場のリポートやインタビューのほか、暮らしに役立つ情報も満載し、農林水産業における先駆的な取組や、農山漁村の魅力、食卓や消費の現状などをビジュアルで分かりやすくお伝えします。

01 夢に向かって羽ばたく若き農業者

岩手県花巻市大迫町に移住し、ぶどうの栽培を行っている鈴木寛太さんに、就農のきっかけや将来の目標などについて伺いました。

02 農業大学校で就農に必要なスキルを身につける

農業に関わる仕事に就くために必要な知識や技術を学べる「農業大学校」。授業の内容から学校生活まで、気になる情報をまとめました。

03 農業法人への就職と大きな夢

熊本県で養豚業を営む農業法人セブンフーズ（株）」を訪ね、高校を卒業して同社に就職した藤沢秀斗さんに、そこで働く魅力や将来の夢を伺いました。

04 地域ぐるみで新規就農をサポート

鹿児島県の（公財）志布志市農業公社が実施している農業研修の現場を訪ね、地域が一体となった新規就農者への支援の取り組みについて伺いました。

御清聴ありがとうございました